



## 1 修学旅行（長崎県・福岡県）

令和5年10月15日（日）から17日（火）の2泊3日で、2年生は長崎県・福岡県へ修学旅行に行ってきました。原爆資料館・平和記念公園での平和学習や長崎市内での探究活動、太宰府天満宮の参拝などを通して多くの歴史や文化に触れ、現地の方々とも交流し、非常に学びの多い時間となりました。幸い大きなけがや体調不良者も出ず、天気にも恵まれ楽しく有意義に3日間の修学旅行を過ごすことができました。



### 探究活動

文： 藤原 大志 （下山中出身）

私の班は、長崎県美術館に行きました。豊田美術館との外観や展示品を比較し、長崎ならではの平和との関連性を見つける探究活動を行いました。また、案内員さんに質問したり、外観の写真を撮ったりして調査を行いました。事前準備として、予め着眼点を決めておいたため、当日はスムーズに調査を行うことができました。長崎県に多いと言われる「尾曲がり猫」を探しに行ったり、新地中華街でおいしい食べ物を食べたりしました。普段できないような体験ばかりで充実した時間を過ごすことができました。

### 平和学習

文： 藤原 大志 （みよし市立北中出身）

長崎原爆資料館に行き、平和学習を行いました。そこには、原爆投下の時間で止まった時計や、爆風で破れた軍服など、さまざまなものが展示されていました。資料館に行ったあとに訪れた平和記念公園には、被爆し水を求めてさまよった少女の手記が刻まれた石碑がありました。どれも戦争の残酷さと平和の尊さを感じさせられるものばかりでした。平和を守るためには、過去の過ちを繰り返さないように歴史を学び、平和への思いを大切にすることが必要だと実感しました。戦争の犠牲者に対する敬意を忘れず、今自分ができることを大事にしていきたいです。

## 2 3年生遠足（ナガシマスパーランド）

私たち3年生は、遠足で長島スパーランドに行きました。私たちのグループは全員絶叫系が好きなので、ジェットコースターにたくさん乗りました。スチールドラゴン2000では、あたかも鳥になったような気分を味わい、考査の疲れも吹き飛ばすくらい叫んで、満喫することができました。たくさん写真を撮ったり、みんなで笑い合ったりして、本当に楽しかったです。5時間という時間、光の速さのようにあっという間に感じました。この遠足が実行できたのも先生方のおかげです。このまま学校生活が終わってしまうと思うと悲しいですが、残り少ない高校生としての時間も楽しんでいきたいです。

文： 藤原 大志 （足助中出身）  
藤原 大志 （上郷中出身）



## 3 1年生遠足（リトルワールド）

1年生は、遠足で野外民族博物館リトルワールドに行きました。友人とサーターアンダギーやイタリアンジェラートなど、豊田にいととなかなか食べることのできない食べ物を食べたりすることができました。アイヌの家では実際に民家を体験できました。寒さの厳しい北海道で建てられたアイヌの住まいは分厚い茅でできていて中は温かかったです。現地の人々がどんな暮らしをしていたのかを楽しみながら学ぶことができました。リトルワールドに行くのは初めてでしたが、普段の授業では体験できない各国の文化や伝統を学ぶことができ、勉強になりました。

文： 藤原 大志 （逢妻中出身）



## 4 豊田産業フェスタ2023

私は豊田産業フェスタにボランティアとして参加し、小さい子たちとバルーンを作りました。子どもと同じ目線で会話ができるように頑張りました。最初は明るく元気に楽しんで活動することができましたが、時間が経つにつれて疲れが出てきました。ボランティアはただの「手伝い」というイメージでしたが、今回



（足助中出身）

私たちJRC部はボランティアの一員として「ミライミラー」のコーナーを担当しました。ミライミラーは子どもから大人まで沢山の人の将来の夢を書いてもらい、それを展示します。自分が想像していた以上に多くの人に参加してくれて嬉しかったです。始めは勇気が出ず、呼びかけが上手くできませんでした。少しずつ慣れてきて、



（上郷中出身）



の経験を通し、立派な「仕事」であることに気付かされました。今回のボランティアでは、積極的にできることを探したり、周りを見て困っている人に声をかけたりすることができました。この経験を通して学んだコミュニケーションの取り方や笑顔・挨拶の大切さを忘れずに、ボランティア以外でも自然と人のためになる行動ができる人になりたいと思いました。



「ミライミラーはどうですか」と大きな声で声を掛けられるようになりました。壁には沢山の人の将来の夢が貼られていて、見ていても元気をもらえました。ボランティアをすることは人を元気づけられるだけでなく、人と関わることで自分も元気をもらうことができると感じました。

## 5 先生紹介

伊藤 雅子先生

私は今年の夏、水泳の世界大会に出場し、優勝しました。世界の舞台上で戦い、世界中の人たちと交流する機会を得たことは、私の成長にとって貴重な経験となりました。言葉が通じなくても、スポーツを通じて心を通わせることが



種目：個人メドレー



種目：50m背泳ぎ

きることを実感しました。この歳になってもまだまだ新しい経験をしています。人生は常に学びと成長の過程であり、新しい経験をすることで、自分自身をより深く理解し、より豊かな人生を送ることができます。みなさんも新たなことに挑戦し、自分の可能性を広げてください。

